【令和５・６年度鳥取県公民連携推進事業　成果報告】

# 若者チャレンジサポートセンター設置に向けた準備事業

## １．事業実施団体

【ＮＰＯ法人ｂａｎｋｕｐ（鳥取市)】

県内を中心に若者と地域、大学、行政、企業をつなぎ、若者の成長を応援し社会参画を広げるとともに、地域の発展に寄与することを目的として設立された団体。地域と外部人材の連携プロジェクト「鳥取シゴト留学」「農村きっぷ」など、若者と地域を掛け合わせた事業を手掛ける。

## ２．県の協働担当課

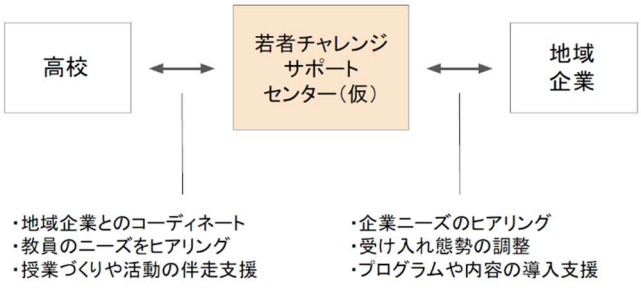
【高等学校課】

県立高等学校の事務を担当する部署。県立高等学校の在り方に関することや、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導、生徒の学力向上に関することなど幅広く所管し、当事業に関わるふるさとキャリア教育の推進、探究学習の推進にも取り組む。

## ３．課題及び目的

人口減少により地域の担い手が不足している。特に若年層の人口流出が顕著であり、鳥取県に誇りと愛着を持ち、さらに発展させようとする人材の育成が求められる。学校での探究学習における地域人材へのニーズは高まる一方で、学校によっては、探究内容と地域人材のマッチングが教職員だけでは困難で、専門のコーディネーター等が求められるケースもある。より質の高い探究学習の実現のためには、単発の交流にとどまることなく、継続的な活動や深い交流につなげる必要がある。

このことから、若者の地域での多様なチャレンジを支援できるよう、若者と地域・企業をつなぐ若者チャレンジサポートセンターの設立を目指すこととし、その準備段階として、どのような体制構築が必要か県立高等学校の協力を経て課題把握を行い、学校での探究学習の支援などを通じた仕組みづくりを検討するとともに、支援者育成カリキュラムの開発やサポートツールの作成などを行うことを目的とした。




センターの役割

## ４．課題解決の手法

### （１）県立高等学校へのヒアリング

・学校から課題、要望等のヒアリングを行う。　※調査校：岩美、青谷、鳥取東

### （２）先進事例調査

・ユースセンター及び探究学習を実践する学校・受け入れ企業を視察し、運営体制、行政・学校との連携、成果や課題等のヒアリングを行う。
※調査先：兵庫県尼崎市、石川県金沢市、青森県五戸町

### （３）学校側をサポートする仕組みの検討

・事業実施団体の人脈を活かし、探究学習協力校における探究活動の新たな企業開拓を支援する。
・学校側、企業側双方のニーズを聴き取り、探究学習の課題設定や方向性のすり合わせを行う。
・探究学習に参加し、授業の組み立て方、課題設定の仕方などについて助言する。

### （４）教員を中心とした支援者のためのサポートツール作成

・コーディネート人材の要件や必要な経験、ノウハウについて整理し、コーディネーター養成講座のカリキュラムを開発する。
・授業や企業ヒアリングで使えるシートを作成し、フレームワークの開発を行う。
・学校や企業の支援、生徒との関わりに関するノウハウをまとめたハンドブックを作成する。

## ５．主な役割分担

【事業実施団体】

・学校の課題及びニーズのヒアリング、先進事例の視察
・探究学習の授業づくりの支援
・連携企業の開拓、学校への紹介
・各種サポートツールの開発・作成

探究学習イメージ図

【行政】
・学校及び市町村との連携調整、学校へのアプローチに関する助言
・学校ヒアリングへの同席
・教職員向けの学びの場の設定
・事業全体に関する助言、資料提供

## ６．取組と成果

### （１）県教育委員会及び県立高等学校へのヒアリングの結果

・支援体制や専門人材の配置の有無により、探究学習の取組は学校毎に温度差がある。
・生徒数が多い学校は連携企業の選定や事前の調整などで担当教員の負担が大きい。受け皿となる企業とのコネクトが少なく、授業設計がしづらい。また、担当教員の異動により、知見やノウハウ、構築した関係の積み上げがゼロからとなる場合がある。

### （２）先進事例調査の結果

・視察したユースセンターは助成金などで開設され、機能を担っている一方で、資金面には課題もあり、施策的にどう補うかは工夫と研究が必要であることが分かった。
・体制、予算規模的に当初の構想のような単独でのセンター設立は難しく、機能などを細分化し、鳥取県内のニーズに合った持続可能なやり方を検討していく必要がある。実施団体のノウハウや仕組みを活かして、若者支援が可能な人材・団体の横展開、ソフト支援の強化について検討していく。

尼崎ユースセンター

### （３）学校での探究学習の支援

・鳥取東高等学校１年生の探究学習の授業カリキュラムにおいて、通年による伴走支援を行った。
・①生徒の進路志望に基づいた業界バランス②生徒との円滑なコミュニケーションが可能③生徒に関心を持ってもらえる面白い取組を実施していることの３点をポイントに以下の企業を選定

| 企業名 | 業種 | 課題設定 |
|---|---|---|
| ONE STRUCTION | 建設･IT | 若い世代が建設業に興味をもつために必要なこと |
| OMOI | 食品 | 若い世代に砂プリンを知ってもらうには |
| 吉岡温泉会館一乃湯 | 観光 | 吉岡温泉の PR について |
| 道の駅はっとう | 観光 | 道の駅の集客を増やすための方策 |
| Web もり | IT | 情報サイト“tory”を若い世代に見てもらうためには |
| Phychoro | 医療 | メンタルヘルスケアを身近にしてもらうためには |
| たにがみ農園 | 農業 | たにがみ農園の梨の販売を広げていくには |

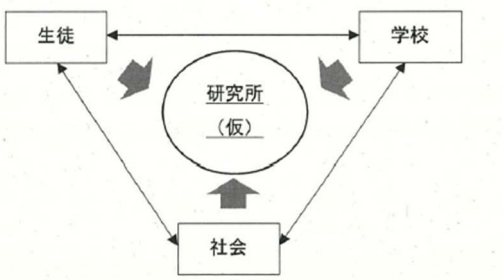
・生徒の深堀りにずれが生じないよう、企業側には扱うテーマや対象の絞り込み、学校側には企業との対面授業を実施してもらうなどの調整を行い、提案の精度を高めることで企業側の期待値（授業参画へのモチベーション）向上につなげた。
・学校、生徒、企業にヒアリングを行い、ワークショップの方法や企業ヒアリングの仕方などをまとめた簡易なマニュアル集を作成し、学校へ配布した。

### （４）若者と地域が連携するためのサポートツール作成

・学校ごとにカリキュラムが異なり、当初想定した規模感で一律のサポートツールの開発はそぐわないと判断して見合わせ、簡易なマニュアル集の作成・配布とした。今後、各学校のノウハウが蓄積されてくれば、新たなサポートツール開発の可能性が出てくると思われる。

## ７．事業終了後の状況

・探究学習で支援した学校とは関係性が構築でき、事業終了後も企業紹介など支援を継続し、定期的に意見交換している。また、他校（東部エリア）からも相談を受けている。
・学校外部（企業・地域団体）との受入環境のサポートの仕組みや学内環境の整備の検討を引き続き行う。
・ユースセンター設置に向けては、持続可能なやり方を検討中。地域ごとに若者の支援に取り組む人材が生まれてきており、これらの人・拠点を横展開して情報を共有し合うソフト的な仕組みの可能性を考えている。
① 学校とのコミュニケーションや情報提供
② 可能な範囲での授業支援
③ 支援ノウハウの蓄積や提供、助言
④ 若者の社会参画プロジェクトの伴走支援
⑤ 探究授業などの情報収集




図－研究所が高校生の探究・社会参画をスムーズにする